

第43回日本・ASEAN経営者会議(AJBM)●(2017年11月22日～24日開催、タイ・バンコク)

ツーリズムが成功のキーワード ASEANと日本の経済戦略を討議

AJBMタイ国内委員会との共催による第43回日本・ASEAN経営者会議(AJBM)が2017年11月22日～24日、タイ・バンコクで開かれた。今回のテーマは「観光業と関連産業の推進を通じた日・ASEAN経済パートナーシップの強化」。日本とASEAN各国それぞれの、経済成長戦略でのツーリズムの位置付けを中心に、10カ国の総勢200人が情報共有と議論をした。日本からは小林喜光代表幹事、横尾敬介副代表幹事・専務理事、片野坂真哉アジア委員会委員長をはじめ46人が参加した。また、これと連携して、日本貿易振興機構(JETRO)が主催する「サービス産業国際シンポジウム」も開かれた。



開会式

初めにタノン・ビダヤ第43回AJBM議長、そして小林喜光代表幹事が開会の挨拶をした。ビダヤ氏はタイのソムキット副首相のメッセージを紹介し、観光産業の発展に向けて、ASEANと日本が官民で協力することの重要性を訴えた。小林代表幹事は、「人と人との交流を促すツーリズムや生活に密着したサービス産業の分野で、日本とASEANの双方向的な関係が深まることで相互理解が進み、より多層的で密接な関係が発展する」と会議への期待を語った。

続いて、片野坂真哉第43回AJBM共同議長の共催挨拶があった。「他の産業と結びつき、地域固有の資源を活かすことで、観光業はさまざまな可能性を持ち得る」という問題意識に立って議論することを呼び掛けた。



小林喜光 代表幹事
(三菱ケミカルホールディングス 取締役会長)

■第43回日本・ASEAN経営者会議プログラム

2017年11月22日～24日(役職は開催当時)

- 1 日目 ●AJBM推進委員会議(各国代表者会議)
- 2 日目 ●開会式
開会挨拶: Dr. Thanong Bidaya, Chairman of the Board of Directors, TTW Public Company Limited (第43回AJBM 議長)
小林 喜光 経済同友会 代表幹事
共催挨拶: 片野坂 真哉 アジア委員会 委員長 (第43回AJBM 共同議長)
- 全体会議Ⅰ「サービス産業の発展に向けた観光の重要性」
基調講演: H.E. Ms. Kobkarn Wattanavrangkul, Minister of Tourism and Sports
パネルディスカッション(カンボジア/インドネシア/タイ/フィリピン)
- 全体会議Ⅱ「観光とヘルスケア等他産業の連携の可能性」
パネルディスカッション(シンガポール/タイ/日本)
- 分科会
●全体会議Ⅲ「分科会報告・総括」
分科会報告(分科会1/分科会2/分科会3)
総括: 日本・ASEAN各国代表者
司会: 橋本 圭一郎 アジア委員会 副委員長
- 閉会式
閉会挨拶: Dr. Thanong Bidaya (第43回AJBM 議長)
片野坂 真哉 アジア委員会 委員長 (第43回AJBM 共同議長)
第44回AJBMについて: Mr. Iman H.Kusumo (AJBMインドネシア国内委員会 代表)
- 3 日目 ●第5回サービス産業国際シンポジウム(JETRO主催)
●AJBM推進委員会議(各国代表者会議)
●現地視察ツアー

全体会議Ⅰ

全体会議Ⅰは、「サービス産業の発展に向けた観光の重要性」がテーマ。片野坂共同議長の司会で、日本とASEANを俯瞰し、日本とASEANやASEAN域内の連結性を高める産業としてのサービス産業、中でも「観光」の重要性を確認した。

まず、タイ観光・スポーツ大臣のゴープガーン・ワッタナワラーンゲン氏が基調講演をした。その中で、観光の

真価は、数字で測れる価値ではなく、国・地域に対する人々の誇りやアイデンティティー、国と国との相互理解にこそある、というメッセージを發し、会議の意義について深い理解を示した。

これを受けてのパネルディスカッションでは、カンボジア、インドネシア、タイ、フィリピンからの登壇者が、それぞれの国の経済成長戦略における観光業の位置付けと特徴、観光振興のために講じている重点施策などについて報告した。

各国の事例からは、観光客数など量的な拡大のみを追求するのではなく、観光振興で裾野産業ともいえる地場産業の活性化を促し、さまざまな効果を最大化させようとする姿勢が伝わってきた。その効果は、雇用創出と包括的な成長、国・地域のアイデンティティーや伝統への愛着の醸成、自然・環境保護を伴う持続可能性の維持、人と人との交流を通じた相互理解の促進などだ。そうした多面的な恩恵を自覚した上で、各国の持つ潜在的な可能性を最大限に発揮し、サービス産業促進の起爆剤にしようとする取り組みが明確になった。



片野坂真哉 アジア委員会 委員長
第43回AJBM共同議長(ANAホールディングス 取締役社長)

全体会議Ⅱ

全体会議Ⅱは、「観光とヘルスケア他産業の連携の可能性」というテーマで、パネルディスカッションをした。観光とその他の産業との融合によって相乗効果を生み出す取り組みが紹介された。

シンガポールとタイからの登壇者は、海外顧客への医療・ヘルスケア提供を主眼とするメディカル・ツーリズムの事例を報告した。「安価で良質な医療サービスを求め、人々が国境を越える」時代を勝ち抜くための方策、具体的な

体制整備のあり方などが提示された。

一方、日本の菅原昭彦気仙沼商工会議所会頭は、日本版DMO*の好例と高く評価される宮城県気仙沼市の取り組みを紹介した。同市は、東日本大震災からの復興過程で、従来からの基幹産業である水産業を目玉に、官民やセクターの壁を越えた連携で地域独自の観光プログラムを生み出している。また、富山県高岡市の鋳物メーカー「能作」の新野謙三販売部長は、工場見学の受け入れで地域の伝統産業を発信し、地域観光の新たな拠点作りに取り組む同社の事例を報告した。

このように、全体会議で各国の成長戦略の中での観光の重要性、観光と他産業の相乗効果の可能性について共通理解を醸成した。その後、「観光とヘルスケア」「観光とその他産業」「セクターを超えた共通課題」という三つの分科会に分かれ、各国のパネリストによる問題提起を受け、日・ASEANの経営者同士が意見交換した。

全体会議Ⅲ

全体会議Ⅲは、分科会の報告と総括をした。分科会1からは、メディカル・ツーリズムに加えて、マッサージ、スパ、フィットネスなどの分野の事例が紹介された。高齢化が進むアジア諸国では、医療サービスが新たな産業として発展する機会が来ることを確認。各国の事例や戦略を学び合い、そうした機会を活用するために克服すべき課題についても、積極的に意見が交わされた。

分科会2からは、インバウンド観光



橋本圭一郎 アジア委員会 副委員長
(塩屋土地 取締役副会長) (右から二番目)

を地域活性化支援につなげる全日空の取り組みが紹介された。ほかに、ASEAN諸国がMICE (Meeting / 会議、Incentive tour / 招待旅行、Convention / 大会、Exhibition / 展示会、の頭文字をとった造語) を中心的なテーマとして力を入れ、意欲的に戦略を推進していることが共有された。

分科会3は、各国や地域全体が観光振興を図っていく際の課題がテーマ。人材育成・活用の重要性、後発ASEAN諸国におけるマイクロファイナンスの重要性、官民パートナーシップの確立、デジタル化や技術革新などの課題について意見交換をした。

分科会の報告を受けて、各国代表者が、橋本圭一郎アジア委員会副委員長の司会のもとで総括をした。

その後の閉会式では、ビダヤ議長と片野坂共同議長の閉会挨拶で会議が終了した。

第5回サービス産業 国際シンポジウム

最終日には、JETROの主催でサービス産業国際シンポジウムが開かれた。JETROが2013年から実施している事業で、2014年からAJBMとプログラム連携をしている。今回は、観光とその他の産業の相乗効果をテーマに、日本とASEANの登壇者がそれぞれの事例を紹介した。来賓として挨拶した片野坂共同議長は、「各国の最近の事例を相互に紹介し合うことで、相互理解と今後の成長・発展に向けた契機が多く生まれる」と、シンポジウムへの期待を述べた。



*DMO: Destination Management/Marketing Organization (地域観光資源に精通し、地域と協同で観光地域作りを行う法人)